

2025春闘趣旨説明

本部は、2月21日（金）、趣旨説明を行いました。以下、報告します。

「組合」

2024問題でJR貨物に追い風が吹き営業収入は増えているが、それと比例して営業費用も増えており、依然として厳しい舵取りを余儀なくされている。期待された2024年度も残り1ヶ月となり、決算については期待に反して厳しい結果になると重々承知しているが、このような中においても、指定公共機関の責務として、組合員は日々、安全安定輸送に努めていることを会社は認識しなければならない。人材は会社の財産であり、人材が無ければ会社は成り立たない。シニア社員はもとより、若年や中堅社員の離職防止、人材の定着化の為に設備投資も肝心であるが、会社が成長を図る上での投資「人への投資」も忘れてはならない。

昨年、輪軸組立不正・貨物列車脱線があり、各旅客会社・荷主様からの信頼信用を損なうこととなった。現在、信頼信用を取り戻すためJR貨物グループ全体で安全に対する取り組みを強化しているが、安全安定輸送確保・良い商品を継続的に提供するためにも、労働条件を改善し社員のモチベーションを上げなければならない。大幅な物価上昇により、組合員の生活レベルは著しく低下し、この状態が長く続けば、やがて業務遂行にも大きな影響を及ぼしかねない。会社の営業費用も跳ね上がっているが、私達の生活費用も跳ね上がっていることを強く認識して頂きたい。

2019年度から導入された新人事制度は「仕事のやりがいと自分の成長を感じられる」制度とトップメッセージを発信したが、社内の大半を占めるプロフェッショナル群から「この制度では、仕事にやりがいを感じる事が出来ない」と、不平不満の声が多くあり、このことが離職に繋がっていると考えられる。今回の制度改正は約50年ぶりの本格的なものであったが、導入ありきで議論する時間も短く、言わば強引的な導入であった。これまでに小規模な制度見直し等がされてきたが、根本的に制度の中身を大きく見直し、会社の底を支えている多くのプロフェッショナル群が「仕事のやりがいと自分の成長を感じられる」制度として頂きたい。また、シニア社員が65歳まで安心して有意義に働ける環境作りを整備されたい。

最後に、「JR貨物の持続的な発展の為に大幅な賃上げが必要不可欠」である。国内では、労働人口減少による労働者の奪い合いが既に起きており、他の企業では将来を見据え「賃上げ」を大胆かつ積極的に行っている。この波に乗り遅れば、優秀な人材が確保出来ず、離職はさらに増え続け、いずれJR貨物存続を左右することになる。将来に希望の持てる会社づくりをするのは会社の責務であり、「賃上げ」を積極的に行うことで、JR貨物グループのブランド力を今以上に上げていかなければならない。現に、犬飼社長も、離職が多いことや採用が計画通り出来ていないことを危惧し、「魅力ある会社を構築していく」と発信しており、厳しい時こそ経営陣の腕の見せ所であり、積極果敢な行動が今すぐに求められている。

これまで、2025春闘諸要求の趣旨を説明したが、如何にして無駄な営業費用を抑えて利益を確保していくか労使が一体となって考えていき、将来に渡って安心して働き続けられる会社を築き上げ、経営状況がなかなか上向きにならない厳しい状況は理解しているが、組合員の悲痛な叫びを受け止めていただき、今後、真摯に交渉を重ね、回答予定日には誠意ある回答をお願いしたい。

会社・趣旨説明についての内容を受け、社内で検討し会社の考え（3月6日）にて示していきたい。今後、真摯な交渉に努めていく。

組合・私達の趣旨を受け止め、誠意ある対応をお願いしたい。次回交渉（収入動向）は、2月28日でよいか。

会社・よい。

組合・改めて、誠意ある回答をお願いしたい。急激な物価上昇についていけず、組合員の生活は疲弊している。

会社・主張を受け止め、社内で検討していく。

以上

次回交渉 収入動向

2月28日（金）
